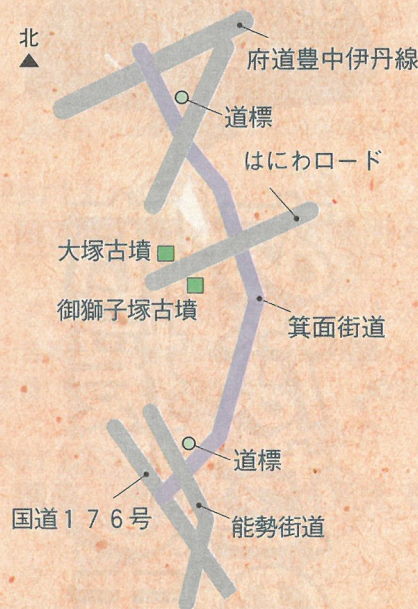




古道を訪ねて⑬

箕面街道・ 桜塚〜服部天神

勝尾寺街道との交差点を横切り南に進み、府道伊丹豊中線を越えて約100m行くと、左手に道標があります。「役行者」を浮き彫りにした南面には、「大峰山上」「三十七度」、寄進者と考えられる「熊野田村(*)」と「與左衛門」の名と「すぐみの かッを寺」の行き先、東面には「すぐ桜塚 尼崎へ」、西面には「すぐ 柳谷 京へ」と刻



まれています。今は宅地開発などで途切れ途切れになっていますが、ここから北東へ進み、熊野田を通り、箕面市今宮から「西国街道」を東に向かうと、長岡京市の柳谷観音の名で知られた「揚谷寺」を経由して京都へたどり着けます。また、南西へ進むと原田元町、利倉を経て猪名川を渡って尼崎へ道はつながっています。さらに南に200mほど行くと、右手に「はにわロード」の標示があります。「桜塚」の地名はかつてこの付近に多くの古墳(塚)があったことに由来しますが、現在も付近には3基の古墳が残されています。直径58mの円墳「大塚古墳」と、全長55mの前方後円墳の「御獅子塚古墳」は発掘調査の後、史跡公園として

整備されていますので、休憩を兼ねて見学されることをお勧めします。街道に戻りさらに南に進んでいくと、長興寺南1丁目で、能勢街道と箕面街道の分岐点にたどり着きます。ここにも道標があります。



南面には「池田道」、東面に「右みのを 勝尾寺山ごえ道」、北面には「嘉永己酉春(1850年) 福杖講」の建立年と寄進者の名が刻まれています。大坂から歩いてきた旅人に、直進すると池田、右に向かうと箕面へ行けることを示しています。箕面街道はここで終わりますが、ここから能勢街道を左(南)に1kmほど進むと、菅原道真が太宰府に流される途中に痛めた足を癒したことから、脚の病氣・怪我の神様として信仰を集める「服部天神」に至ります。

*「熊野田村」は「熊野田村」の間違いと思われます。